

新しい働き方とは？

「時間や場所にとらわれず、

家庭と仕事の両立を可能とした働き方」です。

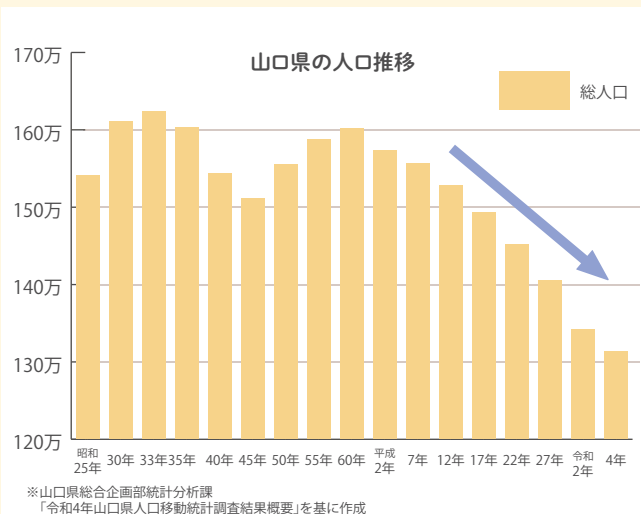


なぜ新しい働き方の導入が必要なのか？

山口県の人口は少子高齢化の影響により、1985年(昭和60年)以降減少を続けています。それに伴い生産年齢人口(15歳～64歳)も減少しており、近年人手不足が深刻化しています。この状況が改善される可能性は低く、今後私たちは減っていく労働力で経済活動を行っていかねばなりません。

そこで注目されているのが新しい働き方の導入です。これまでは多くの会社で「フルタイム」で「会社に出社して」働くことが基本となっていました。そうした働き方はできないが、「短時間」や「自宅や特定の場所」であれば働くことができる方はたくさんいます。また、今はできている方でも、将来育児や介護・治療のためできなくなる可能性があります。そうした時間や場所に制約がある方たちが活躍できる雇用環境を整備することが、これからの重要な経営課題のひとつとなります。

また、経済の発展に伴う消費の多様化により、日々の業務は年々多様化・高度化してきています。それらに対応するための手段としてデジタル技術の活用はとても有効です。業務の効率化による生産性の向上に加え、付加価値の高い業務へ従業員をシフトすることが可能となることで、人手不足を解消するだけでなく、収益の確保にもつながります。



どうやって進めていくのか？

まずは、いま会社で行われている業務を見直し、部署ごと・業務ごとに整理していきます。その過程で業務や作業に必要な要件やスキルを明確化することで、業務の切り出しや再構築が可能となります。合わせてデジタル技術の導入による省略化が可能な業務の検討も行いましょう。



評価制度の見直しや風土づくりも大切です！



せっかく新しい働き方ができる環境が整備されても、それを活用する従業員が納得して取り組まないと継続しません。新しい働き方が運用されやすい会社の雰囲気や業務の成果が評価につながる人事評価制度の導入も大切なポイントです。